

記者会見

日時 令和8年5月19日(火)

午後1時から

場所 市役所3階 大会議室

1 令和8年度6月補正予算(案)の概要について

- ・資料1の表紙に、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟を機に作成したロゴがあります。
- ・昨年10月、越前市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟したときに、aiMIKI(アイ ミキ)さんが越前市の象徴的なものを組み合わせてデザインしてくださいました。
- ・ロゴの下にある文字も、越前筆筒をイメージしています。
- ・私の名刺の裏面には、このロゴマークの英語版を入れています。この名刺を配ることで、世界に発信していきたいと考えています。
- ・市内の方々にも、ユネスコ創造都市ネットワークに加盟したことを知ってもらうため、このように、発表資料にロゴマークの説明書きを追加しました。

- ・令和8年度6月補正予算の概要についてです。
- ・当初予算は、継続事業や、市民生活を維持するに当たって緊急性・必要性の高い事業を中心とした、骨格的予算としていました。
- ・令和8年度6月補正予算案は、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟を契機としたさらなる魅力発信、災害対応の強化を図るトイレトラックの導入など、政策性の高い新規事業等を盛り込んだ肉付け予算として編成しました。
- ・大きな柱は、①「明るい」ふるさとづくり、②「前向きに」夢と誇りを持てる産業と担い手づくり、③「元気で」幸せ溢れる100年人生実現、④「楽しく」教育・子育て、⑤「人の絆」で行財政システム改善の5本です。
- ・そのほかに、国の採択を受けたコミュニティ助成事業を計上しています。
- ・また、2月の大雪で被害を受けた施設の修繕や、しきぶ温泉湯楽里の安全対策等に必要となる予算を計上しています。

- ・その結果、一般会計の補正予算の規模は3億1,141万8千円となっています。
- ・令和8年度の一般会計は、当初、398億5,200万円でした。
- ・3月議会での当初の追加補正が9億3,460万7千円、今回の補正予算が3億1,141万8千円ですので、補正後は、410億9,802万5千円になります。
- ・補正前と比べた伸び率は、0.8%です。

- ・特別会計の補正は、介護保険特別会計のみで、225万8千円の増です。
- ・企業会計の補正はありません。

主要施策①「明るい」ふるさとづくりに向けた事業

創造都市推進事業 649万9千円

書のまち推進事業 224万9千円

観光推進事業 610万円

- ・昨年10月、越前市がユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)に、クラフト&フォークアート、伝統工芸と民俗芸能という分野で加盟しました。
- ・本市の文化的多様性を高め、世界への情報発信を進めます。そして、市民一人ひとりが寛容性や文化を育み、挑戦できる「創造都市 越前」を目指していきたいと思っています。
- ・のちほど、発表項目2で詳しく説明します。

地域防災対策事業 2,957万4千円

- ・私も能登半島地震の現場に行きましたが、トイレがないというのが課題でした。
- ・その対策として、トイレトラックの導入を考えています。
- ・車両は、個室が5室、洋式4基で多機能トイレが1基です。ソーラー発電機、外部充電可能な暖房・換気扇がついています。

空き家対策事業 862万円

- ・第3期空家計画に基づく空き家対策の推進です。
- ・1つ目は、適正管理の確保。
- ・2つ目は、活用できる空き地の拡大。
- ・越前市の空き家は、14.4%で、全国平均の13.8%より高くなっています。その中で、空き家になる原因の約4割に、相続が関係していることが分かりました。
- ・空家等対策早期決断支援制度という制度を作り、空き家が発生したときの家財処分や、相続手続き、除却の費用を支援し、空き家や空き地のスムーズな利活用を図りたいと考えています。
- ・空き家の状態が長引くと建物が傷みますので、3年以内の制度として考えています。
- ・また、「越前市住まい情報バンク おうちナビ」への登録も進めていきたいと考えています。
- ・3つ目は、危険な空家等の除却です。
- ・特定空家等に認定された空き家が、非常に危ない状態になっていますので、今年の冬までには除却を完了したいと考えています。

農作物鳥獣害防止対策推進事業 272万8千円

- ・鳥獣被害が激しくなっています。
- ・1つは、ICT機器の導入です。ICT機器を装着したシカ用の檻を、下黒川町に設置することを考えています。

- ・また、ワイヤーメッシュ柵について、当初予算で37集落分をみていましたが、ほかに1集落でも設置ができるということで、補正予算に挙げています。
- ・電気柵については、地元負担の割合を6分の1からゼロにします。

主要施策②「前向きに」夢と誇りを持てる産業と担い手づくりに向けた事業

農業生産総合対策条件整備事業 1,195万2千円

- ・毎年ある事業ですが、国の補助事業を活用して、担い手の育成・確保や、経営規模の拡大を行うものです。
- ・今回は、作業の効率化に必要な農業用機器等の導入を支援するもので、乾燥用設備の購入費 3,984 万 3 千円のうち、1,195 万 2 千円を補助します。
- ・国から県に補助金が来て、県から市に 10 分の 10 の額が来ます。

有機農業の推進 ゼロ予算

- ・「オーガニック都市宣言」を行っている越前市の有機農業をさらに推進するための、ゼロ予算事業です。
- ・有機農業産地づくり推進協議会と県、JA、生産者(コウノトリ部会など)が連携し、有機農業のさらなる拡大へとつなげていきます。
- ・生産者等への説明や情報共有、令和7年度に作成したマニュアルに基づく栽培技術の横展開を図るほか、有機野菜の栽培研修会を行います。
- ・また、小中学校の給食として提供することを考えています。
- ・さらに、県が中心となり進めている福井県農林水産地方創生センターに、越前市も令和8年度から参画したいと考えています。

駐車場管理事業 7,250万円

- ・令和6年3月16日に越前たけふ駅が開業したときは、駐車場が埋まらないのではないかとされていました。
- ・それが今は、駐車できない状態になっています。
- ・その対策として、有料化をしていきたいと思っています。
- ・詳しくは、発表項目6で説明します。

主要施策③「元気で」幸せ溢れる100年人生実現に向けた事業

社会体育振興事業 80万円

- ・スポーツは、健康にもなるし、人とのつながりもできるので、私も大好きなのですが、当初予算にスポーツに係る事業があまりありませんでした。

- ・昨年4月に、越前市出身のトップアスリートからなる「e☆SPARKLE(イー・スパークル)」が発足しました。
- ・メンバーは、フェンシングの佐藤希望さん、ビーチバレーの村上めぐみさん、陸上の野村有香さん、自転車の中島康晴さん、駅伝の田中悠登さんの5人です。
- ・e☆SPARKLE の皆さんとともに、スポーツに親しむ機会を提供したり、交流人口の拡大を図る事業を実施するものです。
- ・今年度は新たに、「ベイビ e☆SPARKLE」と銘打ち、乳幼児やその保護者を対象とするイベントを開催します。

自転車活用推進事業 27万6千円

- ・私も自転車を趣味としていますが、昨年11月に、越前市自転車活用推進計画を策定しました。私もその策定委員会のメンバーでした。
- ・この計画を推進するため、関係団体のみなさんと意見交換をし、自転車の受入環境を整備します。
- ・自転車の駅を設置するほか、空気入れやサイクルスタンド、水、レンタサイクルなどの整備を検討していきます。
- ・これらの検討を行うに当たり、越前市自転車活用推進会議(仮称)を開催し、意見交換を行いながら、自転車活用の一層の推進を図りたいと思っています。

包括的支援事業及び任意事業(介護保険特別会計) 225万8千円

- ・介護の現場において、ケアマネージャーのみなさんの業務負担が大きくなっています。
- ・空き状況を確認するため、介護事業所に電話するなどしていますが、電話がつながらずに時間がかかることがあります。
- ・そこで、介護事業所のネットワーク基盤を作りたいと考えています。

主要施策④「楽しく」教育・子育てに向けた事業

屋内遊び場管理運営事業 1,388万6千円

- ・屋内遊び場の管理運営費です。
- ・整備費は、令和6年度に2,000万、令和7年に8,000万、合計1億円を県からいただき、現在整備中です。
- ・詳しくは、のちほど説明します。

保育充実促進事業 189万3千円

- ・民間保育園において、3歳児から5歳児の給食の主食に、ごはんを提供するものです。
- ・ごはんを炊くために必要な備品の購入費や、改修工事に係る費用を支援します。
- ・もう1つは、小中高生向けの保育体験イベントの実施に係る経費を支援するものです。

- ・幼い頃に保育士になりたいと思っていた子も、大きくなるにつれ、その思いが薄らいでいきます。
- ・保育士の仕事を伝えることにより、将来的な保育人材を確保したいと思っています。

妊娠・出産包括支援事業 101万4千円

- ・現在行っている通所型、宿泊型の産後サービスに加え、訪問型のサービスを始めるものです。
- ・助産師に自宅等を訪問してもらいます。
- ・1回1時間程度で、費用は500円。1人につき2回まで利用できます。

教育委員会事務局運営事業 77万7千円

- ・坂口小学校が、令和8年度をもって閉校し、神山小学校と統合されます。
- ・小中学校の適性規模・適正配置の検討に当たっては、子どもにとって望ましい教育環境について、保護者、学校、地域と丁寧話し、共通の理解を深めることが大切です。
- ・先行事例の視察も行い、また、市全体の基本的な考えを整理したいと考えています。

読書推進事業 73万6千円

- ・かこさとしさんが、今年生誕100年を迎えました。
- ・越前市には、かこさんが監修した武生中央公園や、かこさとしふるさと絵本館「砾(らく)」があり、とても結びつきが強いです。
- ・また、今年越前市中央図書館が開館20周年を迎えます。
- ・2つの記念の年をとらえ、越前市をかこさんでいっぱいにする事業です。
- ・詳しくは、後ほど説明します。

主要施策⑤「人の絆」で行財政システム改善に向けた事業

放課後児童クラブ事業 200万円

- ・子どもの居場所となる放課後児童クラブについて、児童と園児が同一の施設を利用している場合があります。
- ・民間の児童クラブから、誰が園児で、誰が児童かが分からなくなっている、という声を聞いています。
- ・入退所や出欠の管理、保護者との連絡などを行うための ICT システムの導入に係る費用を支援します。
- ・タブレット等の端末購入費や、システム構築のための経費に対し、1クラブあたり上限50万円を支援します。
- ・保護者の利便性や安心感が向上するようにしたいです。

保育充実促進事業 543万3千円

- ・ICT ツールを導入、活用している民間園が、その使用を継続するための費用を支援するものです。
- ・県に要望して予算化されました。
- ・1園あたり上限50万円。16園に対し支援することを考えています。

下水道事業会計事業 4,837万7千円

- ・下水道使用料の引上げ相当額を、半年間減免するものです。
- ・令和8年10月検針分から、下水道使用料を25%引き上げるための条例案を今議会に提出します。
- ・ただ、激変緩和措置として、1年間は引上げ率を12%とします。
- ・そのうち、令和9月3月検針分までについては、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、実質引上げ額をゼロとするものです。
- ・詳しくは、後ほど説明します。

2 ユネスコ創造都市ネットワーク加盟後の取組み方針について

- ・ユネスコ創造都市とは、人のアイデアや創造力を生かして、文化や芸術、デザイン、観光、市民活動などから、新たな価値を生み出す都市のことです。
- ・世界で408都市、日本では12都市、クラフト&フォークアート分野では、国内で3都市が加盟しています。
- ・まちの強みを生かし、全国や世界と繋がり、持続的な発展を目指すものです。
- ・まちの魅力が高まり、人と仕事を呼び込み、文化施策・産業施策・まちづくりが一体化して、市民の誇りと参加を高める効果があります。
- ・ユネスコ創造都市ネットワークに加盟することにより、越前市は、世界とつながり、アピールする「手段」と「機会」を得ました。

- ・新たな価値による成功事例として、越前市と同様、クラフト&フォークアート分野で加盟しているアメリカのサンタフェ市があります。芸術品市場で全米第2位となっています。
- ・また、丹波篠山市でも、定住人口が増加しています。
- ・越前市でも、越前打刃物はすでに世界へ発信をしていっています。越前和紙や越前筆筒も後に続くようにしたいです。

- ・越前市の加盟にあたり評価された点として、1点目は、越前鳥の子紙や千年未来工芸祭など、伝統工芸の保存継承と振興に積極的に取り組んでいることです。
- ・2点目は、武生国際音楽祭や源氏物語アカデミーが30年以上続いているなど、市民の文化活動が盛んなこと。
- ・3点目は、蓬萊祀(おらいし)や、やんしき踊り、ごぼう講など、長い歴史や豊かな文化が

あること。

・4点目は、これらを生かした取組に将来性があることです。

・加盟した都市には責務があり、その責務を果たすため、4月に創造都市ネットワーク推進室を、文化県都推進課の中に設置しました。

・観光誘客課と和紙・打刃物・たんす課の職員が、文化県都推進課創造都市ネットワーク推進室職員を兼務し、部局横断の取組みを行っています。

・また、5月14日には、創造都市の取組みを推進するためのエンジンとして、市創造都市推進協議会(クリエイティブシティエチゼンラボ)を立ち上げました。

・今後の取組みと目指す未来についてです。

・文化とビジネスをつなぐ、創造の担い手を育てる、世界をひきつける、それにより、持続可能な経済の発展を循環し、人口減少を改善していきます。

・4年間の方針として、2026年度と2027年度は、ユネスコ創造都市ネットワークの理念や目的を市民に広く共有し、産地・市民・民間事業者が当事者として意識を高める年とします。

・すでに、武生公会堂記念館といまだて芸術館において、創造都市推進企画展の第1回として「日独交流「神和紙」展」を行っています。このような取組みを行っています。

・後期(2028年度、2029年度)は、前期で整えた基盤を元に具体的な事業を実施するとともに、その後の運営体制を確立していきます。

・2029年には、同分野で加盟しているアジアの都市を招待して、創造都市国際会議を開催したいと思っています。

・令和8年度6月補正予算としては、国内外の都市との交流や会議に参加するための創造都市推進事業に649万9千円。

・現在の寺子屋など、書のまち推進事業に224万9千円。

・伝統工芸の保存継承や振興として、書のセットの開発に610万円。

・さらに、長い歴史豊かな文化として、かこさとし生誕100年×中央図書館開館20周年に73万6千円を計上しています。

・なお、令和8年度当初予算には、伝統工芸の保存継承や振興に1億円以上、市民の文化活動に1,500万円以上、長い歴史や豊かな文化に4,500万円以上、合計1億7,144万6千円を既に計上しています。

3 しきぶ温泉湯楽里安全対策工事の実施について

・しきぶ温泉湯楽里の女性浴室において、昨年12月と今年2月、短期間のうちに事故が相次いで発生しました。

- ・特に、令和8年2月1日に発生した事故では、壁面のタイルが落下し、幸い大事には至らなかったものの、利用者にかすり傷を負わせる人身事故となりました。
- ・これらの事態を重く受け止め、①利用者の安全性が確実に担保されること、②安全対策及び休業期間中に生じる補償等を含めた総合的なコスト算定の2点について検討を進めてきました。

- ・安全対策工事の概要及び事業費としては、外部の建築士を含めた検討会を設置し、再発防止に向けた安全対策を検討していただきました。
- ・その検討結果を踏まえ、資料2に示すとおり、浴室内における安全対策工事を実施することとし、今回の補正予算に計上しています。
- ・現在のところ、令和8年冬までの再開を目指していますが、資材供給等の不安定化が生じた場合には、工期が長引き、事業費も増額の可能性があります。
- ・私も現地確認をしてきましたが、特に女性浴室において被害が大きく、さび等の劣化の進行も顕著であることがわかりました。
- ・このため、女性浴室については、壁面タイルを全面撤去し、さらに天井裏へ換気装置を設置することとし、その費用は約3,800万円を見込んでいます。
- ・男性浴室については、工事費として684万円を計上しています。内容としては、壁面及び柱の一部撤去・アンカーによる補強のほか、女性浴室同様に天井裏へ換気装置を設置します。また、天井パネルの修繕費については当初予算にて対応しております。
- ・以上を合計し、6月補正の事業費は4,501万6千円となっています。

- ・次に、今後の施設のあり方についてです。
- ・令和8年度以降は、施設の維持管理に要する費用が大きく増加する見込みであり、指定管理委託料についても、令和7年度までと比較して令和8年度は大幅な増額となっています。
- ・こうした状況を踏まえ、令和7年12月に市内に「しきぶ温泉湯楽里のあり方検討会」を設置し、検討を進めてきました。
- ・しかしながら、今回の事故を受け、より専門的な視点からの検討が不可欠であると判断し、今後は外部の専門家を加えた検討会に体制を変更したいと考えています。
- ・現時点では、女性浴室及び男性浴室に関する対応が中心となっていますが、今後は①施設全体の老朽化の現状把握、②利用者の安全確保のために必要となる対策内容、③それらに要するコスト等、大きくこの3点を総合的に検討していきたいと考えています。

- ・また、市民のみなさんの声を丁寧に聴取するとともに、市議会の皆様のご意見も踏まえ、令和9年度中を目途に今後の方向性について結論を出したいと考えています。
- ・検討にあたっては、①大規模修繕を実施し、耐用年数まで継続する、②施設規模を縮小したうえで継続する、③施設機能を転換する、④施設を廃止する、この4つの方向性

を基本軸とし、白紙の状態から幅広く検討していきます。

4 屋内遊び場について

- ・ショッピングセンター「武生楽市」内の屋外遊び場についてです。
- ・昨年10月から11月に公募型プロポーザルを実施し、設置場所や整備内容、管理運営が決まりました。
- ・年末年始には、市民から意見募集しました。
- ・それを踏まえ、1月から3月に基本設計と実施設計をし、4月に施行をスタートしています。
- ・いよいよ、7月24日に引渡し、8月4日に供用開始を予定しています。
- ・施設の愛称には、107件の応募がありました。現在選考中で、6月中に発表を予定しています。

- ・6月議会には、施設の設置管理条例とともに、運営に係る費用を補正予算案として上程します。
- ・予算額は、管理運營業務委託料、建物借上料、予約システム使用料を合わせて1,388万6千円。令和8年7月24日から令和9年3月31日までの期間の費用です。

- ・施設の面積は約412㎡。遊び場フロアが約400㎡、立体迷路が12.2㎡です。
- ・整備費用は、県の補助金1億円を活用しています。
- ・開場時間は午前10時から午後6時まで。
- ・利用者は、概ね12歳までの子どもで、保護者同伴を必須とします。

- ・繁忙期のみになりますが、土日祝日、夏休み、冬休み、春休み期間中は、遊び場フロアのみ予約制とします。立体迷路は予約不要です。

5 越前市くらし応援商品券発行事業について

- ・物価高は、市民にとって切実な課題です。
- ・主に当初予算の追加補正に計上していますが、越前市では、子育て世代への支給金、住民税非課税世帯への給付金、学校・保育園等の給食食材費の支援、下水道使用料の免除など、様々な対策を行っています。
- ・今回の商品券発行事業も、これらの物価高対策の一つです。

- ・内容としては、19歳以上の市民に対して、市内の取扱店舗で利用できる5,000円の商品券を発行します。
- ・運営委託先は、株式会社ふくいのデジタルです。

- ・商品券は2種類あります。
- ・デジタル商品券を先行して行います。6月下旬に圧着ハガキで通知を送り、通知に沿ってアプリを登録すると利用できます。7月1日から来年1月31日まで利用できます。
- ・7月31日までにデジタル商品券を取得できなかった人には、世帯ごとに紙商品券を郵送します。申込みは不要です。紙商品券は、9月上旬から順次発送して、9月1日から使うことができます。
- ・登録済みの店舗は、4月22日現在で481店舗です。
- ・デジタルの場合、市役所へ紙の商品券を持ち込む必要がありません。参加登録に係る事業者の事務手数料もありません。
- ・キャッシュレス決済に対応してこなかった店舗に対しても、この機会に参加を呼び掛けたいと考えています。
- ・紙商品券は1枚 1,000 円で5枚綴りですが、デジタル商品券は1円単位で決済することができます。また、紙商品券よりも早く使うことができます。
- ・越前市でのデジタル商品券の発行は、今回が初めてです。そこで、取得促進策として、委託先である株式会社ふくいのデジタルさんが、独自のキャンペーンを実施すると聞いています。
- ・デジタル商品券を選択した市民を対象に、抽選で 1,000 名に500ポイントが進呈されます。当選した方には、デジタル商品券の取得期間終了後、8月上旬に、アプリでポイントが直接付与されます。

6 越前たけふ駅パーク・アンド・ライド駐車場の有料化について

- ・越前たけふ駅の駐車所がいっぱいになっています。停めたくても停められないという状態なので、これを何とかしたいと思っています。
- ・令和6年4月に混雑が顕在化し、その後利用動向調査を行いました。
- ・令和7年度は、9月に第3駐車場79台分を、12月に第4駐車場24台分を増やしました。
- ・しかし、駐車場の混雑は依然として続き、12月議会で有料化の基本方針を示し、3月議会で使用料、割引額等の設定方針を説明しました。
- ・6月議会では、有料化に向けての条例改正案と予算案を上程するものです。
- ・駐車場ごとの使用料と割引額についてです。
- ・第1、第2駐車場については、2時間以内は無料です。その後、1時間につき100円で、1

- 日の上限は500円とします。1日を越えたら、また500円を上限とします。
- ・新幹線や高速バス利用者は、1回あたり一律500円を割り引きます。割引後の使用料は、1泊2日の場合は500円、日帰りの場合は0円になります。
 - ・第3駐車場は、1日の上限が400円です。
 - ・日帰りの場合は、割引後の使用料は0円です。
 - ・1泊2日の場合は、割引後の使用料は300円です。300円で利用できるということで、第3駐車場から埋まっていくことを期待しています。
 - ・第4駐車場は、アンケートで「月極めが欲しい」という意見があったので、月極駐車場へと切り替えます。
 - ・工事請負費が7,000万、3か月分の委託料が250万で、予算は7,250万円を計上しています。
 - ・今議会で承認いただければ、業者選定、設計、工事を進め、来年1月15日には有料化を開始したいと思っています。

7 下水道使用料の改定について

- ・下水道使用料を25%引き上げる必要があることから、条例改正案を今議会に提出します。
- ・一方で、市民のみなさんの負担とならないよう、令和8年10月検針分から令和9年9月検針分の1年間は、激変緩和措置として、改定率を12%とします。
- ・あわせて、令和8年10月検針分から令和9年3月検針分については、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、12%の引上げ分も減免します。
- ・新使用料金表について、単身世帯や少量使用者が増えている中、基本水量をこれまで10㎡から5㎡へ引き下げます。
- ・これにより、新たに追加する従量使用料については、基本使用料の増額を抑制することで調整し、一人暮らし世帯や高齢者世帯などの少量利用者に配慮した料金体系にしていきたいと考えています。

8 かこさとし生誕100年×中央図書館開館20周年について

- ・かこさとしさんが、今年、生誕100年を迎えました。本市には、かこさとしさんが監修した武生中央公園のほか、ふるさと絵本館「砥」があります。
- ・また、中央図書館が開館20周年を迎えることから、その顕彰事業を展開したいと考えており、6月補正予算にその費用を計上しています。

- ・実施期間は、令和8年7月から令和9年3月まで。中央図書館や「砦」をはじめ、市内全域での展開を考えています。
- ・「まちのあちこちで、かこさんと出会う1年」として、大きく3つの柱で事業を行います。
- ・1つ目は、生誕100年×市内全域。
- ・のぼり旗やパネル、かこさんの紹介コーナーを設置します。市民の皆さんや越前市に来る人に、かこさんが越前市出身であること、今年が生誕100年であることを感じてもらうための環境づくりを行います。
- ・2つ目は、生誕100年×中央図書館開館20周年。
- ・武生中央公園は、かこさんが監修した唯一の公園です。その特性を生かし、だるまちゃん広場をテーマにした企画展や、公園や公園内の施設をめぐるクイズラリーを実施します。
- ・親子で楽しみながら、武生中央公園にあるかこさんの作品を体験してもらいたいと思っています。
- ・中央図書館では、年間を通じて作品展示やイベントを行い、かこさんの作品を発信していきます。
- ・3つ目は、中央図書館開館20周年。
- ・令和4年に第68回角川俳句賞を受賞された、西生(さいしょう)ゆかりさんは、越前市ゆかりの方です。その西生さんの講演会を実施します。
- ・かこさんも、俳句の方の影響を受けて、名前を「さとし」と3文字にしたと伝記に書いており、俳句とゆかりがあります。
- ・ほかにも、表紙に越前和紙を使用したオリジナルの読書手帳を図書館で配布したり、書店や読書ボランティアとの連携イベントを実施したりして、「読書のまち越前市」を発信していきたいと考えています。
- ・この事業は、単発のイベントではなく、1年間通じて、市内全域を舞台に展開する記念事業です。ユネスコ創造都市ネットワーク加盟にあたり評価されたように、越前市の長い歴史の中にあるものを感じてもらいたいです。
- ・市民の皆さんが、色々な場所で、かこさんの作品や思い出に触れることにより、ふるさとへの誇りを育み、「読書のまち越前市」を次の世代へきちんとつないでいきたいと考えています。

質疑応答

Q

- ・今回の肉付け予算に、市長の考えはどれくらい反映できましたか。

- ・また、今後の展開や、9月補正予算、12月補正予算を見据え、どのような点に取り組んだのかを教えてください。

A

- ・骨格的予算だった当初予算の編成後、職員とヒアリングをしたり、私自身現場に行っ色々方と話をしたりしました。
- ・その中で、「越前市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟したことを、どのように発信していくのか」、「越前打刃物、越前和紙、越前筆筒と魅力的なものがあるが、知られていない」という課題がありました。
- ・話を重ねる中で、やはり発信が大切だということで、ユネスコ創造都市ネットワークのロゴマークを印刷した名刺を使ってほしいと、職員にもお願いしています。
- ・昨年10月に越前市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟し、12月には越前鳥の子紙が無形文化遺産に登録されました。
- ・そして、日本の「書道」も、ユネスコ無形文化遺産登録に向けて進んでいます。
- ・越前市も、昨年度から「書のまちづくり」を進めており、この3つのユネスコをきっかけに、越前市を世界に発信していけると考えています。
- ・ゼロからのスタートではなく、越前市に元々あるものをどのように発信していくかについて、創造都市ネットワーク推進室の3課と何度も意見交換をし、積み上げてきました。
- ・世界に発信していくことは、楽しみでもあり、同時に、責任も感じています。

・それから、トイレトラックについて。

- ・私も能登に行った経験から、災害時のトイレの確保をどうするのか、そして、トイレトラックの平時の使い方をどうするのかについて、話をしました。
- ・貸し出すのはよいが、管理をどうするのか、この辺りを最も議論しました。

- ・今後の展開については、スポーツ、そして自転車は大事だと思っています。
- ・自転車活用推進計画を昨年策定し、打合せの場として、推進会議の予算を今回計上しています。
- ・学校の再編についても同様ですが、このような、意見交換の場づくりのための予算を6月補正予算に計上しました。
- ・私自身、色々なところに出歩いて、地元の方と話をしていますが、職員も、体育祭や地元のイベント等でスタッフとして働いている姿を見ます。このような場が大事だと思っています。

Q

- ・小中学校の適性規模・適正配置について、今回は、学習会や先進地視察のための予算を計上しています。
- ・坂口小学校で休校に向けた動きが先行して進んでいますが、市内の各地区の学校規

模の適正化について、市長はどのような進め方がふさわしいとお考えですか。また、スケジュール感をお持ちでしたら教えてください。

A

- ・坂口小学校については、令和8年度から4年間、新入生がいないことが令和6年10月に分かりました。
- ・今までは少数ながらも縦の学年のつながりの中で様々な交流や活動を行っていましたが、それも難しくなりました。
- ・その中で、「坂口校の未来を考える会」を立ち上げ、地域とPTAのみなさんが中心となり、何度も何度も話をし、坂口小学校としての在り方を出していただきました。その地区の思いを受け止めて形にしました。
- ・坂口小学校のケースを踏まえ、次は、早めに地区と話をしていきたいと教育長と話をしていました。そのための予算を6月に計上しました。
- ・スケジュール感としては、今年、来年あたり、地区ごとに話をしてもらおうと考えています。
- ・地区ごとに人口も違いますし、地区外や県内、国外から来る人もいるなど、学校ごとに条件が異なります。我々がいきなり決めるのではなく、地域の思いを聞き、地域を支える形で方針を決めることを考えています。

Q

- ・越前たけふ駅パーク・アンド・ライド駐車場について、適正な利用につなげるために有料化するものと理解しています。
- ・駅周辺は、新しいまちづくりを進めているエリアです。今回の有料化は、このエリアの活性化に向けてどのような効果があるとお考えですか。

A

- ・3月に株式会社福井村田製作所の研究開発棟ができました。村田製作所さんは、社員の駐車場を自社の駐車場でまかなうと言ってくれました。
- ・今は、駐車場利用者が、本当に新幹線や高速バスを利用しているかが分からず、みなさんモヤモヤした思いを抱えています。
- ・有料化することにより、実際にどのような人が駐車しているのかが見えてくると思います。
- ・並行して、道の駅の駐車場についても、指定管理者と話をし考えていきたいです。
- ・鯖江市や福井市から来る人からも、「止められない」、「早く有料化してほしい」という声を聞いています。
- ・有料化により儲けるつもりはなく、だからこそ、日帰りの場合は無料、1泊2日の場合も低廉な使用料としています。
- ・有料化しコントロールすることによって、停めたい人が適切に止められるようになり、ま

ちづくりにつながっていけばと考えています。

Q

- ・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟にあたっては、伝統工芸を生かした市民の文化活動が評価の大きなポイントだと思っています。
- ・今後の市民活動との連携や支援の在り方について、考え方を教えてください。

A

- ・資料2の3ページ、令和8年度当初予算の②市民の文化活動をご覧ください。
- ・例えば、武生国際音楽祭については、これまでも市で予算を計上し、支援してきており、それがとても評価されました。
- ・いま14団体の活動を支援していますが、今後、このようなプレイヤーのみなさんから「もっとこうしたい」という話が出てくるのではないかと思います。
- ・また、先日の市創造都市推進協議会のキックオフ会議では、このような市民活動を発信するために何ができるかについて話をしました。世界を知っている人や先端で活躍している人に、越前市のすごさをもっと発信していただき、化学反応を起こしていければと思っています。
- ・越前和紙・越前打刃物・越前筆筒などの伝統工芸と、市民の文化活動がコラボレーションし、一緒になって活動が広がり、それを発信していく、ということをやっていきたいと考えています。

Q

- ・「書のまちづくり」について、越前市を書道のまちとしてPRすることの意義や、期待する効果をお聞かせください。

A

- ・資料1の2ページをご覧ください。
- ・越前市には書道の愛好家が大勢います。
- ・書道は、年を重ねるほどに上手になりますし、様々な会派の代表のみなさんが一緒になると、すごい力を発揮できると思います。
- ・みなさん、発表の場を求めていますし、子どもたちが書道を体験する機会を、自分たちが提供したいということで、現代の寺子屋を予算に計上しています。
- ・また、越前市の手仕事、手わざを集約することにより、書道セットができるのではないかと、という話があり、それを支える予算も計上しています。
- ・このようなプレイヤーのみなさんとの取組みが、うまく進むことを期待しています。

Q

- ・トイレトラックについて、実際どのような場面で使うことを想定されていますか。また、災

害がないときの活用方法を教えてください。

A

- ・トイレトラックは、断水し、下水も止まったときに使用することを想定しています。
- ・地震だけでなく、水害の場合も想定しています。
- ・令和4年8月の南越前町の大雨のときも、上水と下水が止まり、避難所でトイレが使えない状況になりました。このような場面でトイレトラックを設置することをイメージしています。
- ・また、能登半島地震の際には、被災地以外の自治体がトイレトラックを派遣していました。
- ・同様に、越前市がトイレトラックを導入すると、他の被災自治体へ派遣することができます。トイレトラックのネットワークに加入することで、越前市で大災害が起きたときは、全国からトイレトラックを派遣してもらうことが期待できます。
- ・資料1の3ページにあるとおり、平時は、防災訓練等に貸し出すことを考えています。
- ・また、ルールを決める必要はありますが、サマーフェスティバルや菊花マラソンなど、人が集まる場所で展示し、使ってもらうことで、普及啓発につなげたいと思っています。

Q

- ・越前たけふ駅の駐車場について、停めたい人が停められないという問題が生じていますが、新幹線や高速バスを利用しない人が駐めている可能性があるという認識でよいでしょうか。

A

- ・資料6の1ページ(2)経緯にあるとおり、令和6年5月と令和7年3月に利用動向調査を行いました。
- ・約550台のうち、約1割は、新幹線や高速バス以外の利用者ではないかという使われ方でした。
- ・1件ごとに聞いたわけではありませんが、4台くらいで集合して1台に乗り合わせて出発する、子どもの大会などのために集合してバスに乗り換えて出発する、このような目的外利用が約50台ありました。
- ・それから長期間駐車。例えば、単身赴任のために東京へ行っている人が、3か月間駐車したままにする、という可能性もあります。たしかに、北陸新幹線や高速バスを使っているのですが、家族に送迎してもらえば済むことです。
- ・このようなケースを防ぐために、今回の有料化に当たっては、長期利用者には負担が生じ、短期利用者には安くなるようにしています。

Q

- ・確認ですが、550台というのは、第1回と第2回の利用動向調査を合わせた数でしょうか。

A

- ・令和7年度に第3駐車場79台分と第4駐車場24台分が増えたので、現在は全体で540台ですが、利用動向調査時点での駐車場の台数は、第1、第2駐車場の437台です。そのうち約50台が目的外駐車でした。
- ・地域の方や市議会のみなさんからご質問やご意見をいただき、令和7年12月議会で有料化の方針を説明しました。
- ・令和8年3月議会でも、再度有料化したいと説明し、この6月議会で条例案と予算案を提出します。
- ・3月議会でも、「料金が安すぎるのではないか。みんなが駐車しに来る。」との意見がありました。

Q

- ・ただ、あまり料金は跳ね上げたくはないという思いでしょうか。

A

- ・芦原温泉駅や敦賀駅、福井駅と比べても、一番安い料金です。
- ・儲けるつもりはありませんが、6月補正予算に計上している予算 7,000 万円は、将来的には今考えている使用料でペイする計算ではあります。
- ・混雑対策としてうまく機能すれば、使用料をもう少し安くしてもよいと思います。条例を改正する必要はありますが、使用料はまた変えることができますので。